

# 「うさ松の秘伝書」の活用の仕方

令和4年4月1日（金）

世田谷区立松沢小学校

研究部

- 手引き書 →
  - ・読みの基礎・基本や言語形式をまとめたもの。授業でポイントを押さえるときに活用する。
  - ・児童が個別学習を進めるための資料。自主的な学習活動を促すための手立て。  
(例：「接続詞を入れて要約する」  
要約するときのポイント・接続詞の種類を手引き書で確認し、自力解決できるように)
  - ・書いてある内容は、絶対的なものではないので、児童の実態や学習内容に応じて適宜、加筆修正しながら活用してよい。

<基本の使用方法> 冊子やタブレット端末で活用する。

- 高学年 授業で押されたところに付箋を貼らせるなどすると振り返りやすい。
  - 中学年 児童の実態に応じて、拡大したものを教室に掲示し、さらに新たな考え方を加えながら活用する。
  - 低学年 手引きから読みの基礎・基本を習得する。「うさ松ポイント」
- \*冊子を活用する場合は、回収して次年度（上の学年）でも活用すると児童の学習が積み上がる。

「学習活動のネーミング化」学習の流れや活動内容が分かり、主体的な学びにつながる。

学習過程	下学年(1~3年)	上學年(4~6年)
・個人読み	じっくりタイム	マイタイム
・グループ交流	わいわいタイム	シェアタイム
・全体交流	なるほどタイム	フォローアップタイム
・加筆修正	つけたしタイム	プラスタイム

## 「学習の進め方」

学習の進め方・学習の手がかり～井出先生資料より～

### 学習の進め方

- ①課題に即して学習材を読む。
- ②文章から大事な語句を考える。
- ③取り上げた大事な語句や文を課題に即して関連付けながらノートにまとめる。

### 学習の方法

- ①大事な語句や文を囲んだり線を引いたりする。
- ②大事な語句や文を結び付けてまとめる。
- ③まとめるときには短く書く。

## 「読みの手がかり」

### 手がかり

- ①接続語、指示語、文末表現、段落、相互段落の関係等→叙述面（言語形式）
- ②時間や事柄ごとの順序、事柄と理由、事実と意見・考えとの関係等→内容面（言語内容）

\*本校では、「学習の進め方」と「読みの手がかり」で統一する。